

景観65

シリーズ

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。

その中心の建築物である県庁舎は、建築家安田臣が建設省時代に設計した、モダニズム建築の代表作です。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

「みんなで残したい松江の景観400選集」から
景観審議会が特にお薦めする景観

雪の日の県庁舎

No. 261

「普段見慣れた県庁舎も、雪の日に見ると凛としてなかなかのものです」と推薦いただきました。

現在の県庁舎は五代目で、四代目庁舎が昭和31年12月原因不明の出火により庁舎の80%を焼失し、新庁舎は昭和32年9月9日に着工し、昭和34年1月25日に完成しました。

松江城の景観を損ねることなく絶妙に配置された、県庁舎とその周辺の建築物は、1970（昭和45）年には、計画的な整備と景観に配慮した設計が高く評価され、日本建築学会賞を受賞しています。

一見すると典型的な庁舎建築ですが、黄金比(*)を取り入れた外観デザインや、ひさしのすぐ下に大型窓を設けて、雨や雪の日でも採光を確保したディテールは見事です。冬になるとハクチヨウやカモが訪れ、大手前から眺めた景観は自然美があふれた素晴らしい表情を醸し出しています。ぜひ一度雪の日の県庁舎に注目してみてはいかがでしょうか。

* 建物が安定的・調和的に見える1・1.6の縦横の比率